

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年 2月28日

事業所名 こどもデイサービス まーち♪

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	安全を最優先にし、遊具等を配置している。	児童が安全に、かつ広く活動できるよう今後も見直しや改善を行っていく。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	配置基準以上の人員を配置。	利用児の人数、年齢、障がい特性等に応じた体制を整えていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	個々の児童が使うロッカーやおもちゃ等の収納場所などに写真カードを貼り付け、視覚的にわかりやすく伝達できるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	毎日、すべての部屋の清掃及びアルコール消毒を行っている。すべり台等の大きな遊具の下にはプレイマットを敷き、安全面に配慮している。床が冷える日には床暖房を使用している。午睡をする子や休息が必要な子には、別室を準備し、静かな部屋で休むことができるようにしている。	定期的に環境面における見直しを行い、児童が安全・快適に過ごすことのできる空間を維持していく。
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	0	月1回の所属会議にて、業務改善に係る見直し等を行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	保護者からのご意見をもとに、業務改善につなげている。	今後も保護者からのご意見を大切に、業務改善につなげていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	平成30年度より実施。ホームページにて公開を行っている。	今年度も同様に実施していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		第三者による外部評価は行っていない。今後も自己評価、保護者向け評価等を通して業務改善につなげていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	年間数回、法人内での処遇改善研修をはじめとした職員研修に全員参加している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	アセスメントを通して、子どもの状況や課題等を把握するとともに、保護者の意向の聞き取りも行い、それらを盛り込んだ児童発達支援計画を作成している。	今後も子どもの状況について把握しながら、保護者からの聞き取りを大切にしていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	統一したアセスメントシートを使用。利用開始時には当該児童についての詳しい聞き取りを保護者より行い、職員間で情報共有し、同じ支援ができるようにしている。アセスメントシートをもとに概ね6カ月に1回、アセスメントを行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	ガイドラインを基盤とし、より具体的で一人ひとりの発達段階に応じた目標や支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	児童発達支援計画の内容を全職員に周知し、具体的な支援内容について共通理解をしたうえで支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	児童指導員、保育士による立案のもと、チーム全体で活動計画を立てている。	今後も職員全員で意見を出し合いながら、チームで計画を立てていく。また利用児の年齢、障がい特性等をふまえ、活動内容の計画を行っていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	活動内容に偏りがなくよう工夫しながら月間プログラムを作成している。	今後も外部講師による活動とうまく組み合わせながら活動内容について計画していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	6	0	いずれ迎える就園や就学を見据え、子どもの発達段階に応じて個別活動、集団活動を組み合わせた支援計画を作成するよう努めている。	小集団での活動ができるという当事業所の長所を活かした児童発達支援計画を作成していく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	業務日誌にその日の予定や支援内容、連絡事項等を記入し、全員が目を通したうえで支援を行うことができるようにしている。また必要に応じて、支援開始前に打ち合わせを行い、安全な支援を行うことができるよう努めている。	今後も業務日誌を活用しながら、可能な日には支援前ミーティングを行っていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	職員の勤務時間の関係で、必ずしも振り返りを行う時間を確保しているとは言えないが、なるべく共有するようにしている。また共有事項を業務日誌に記録し、翌日の支援につなげている。	短時間でも、振り返りを行う時間を作り、職員間で共有できるようにしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	ケア記録に加え、業務日誌に一人ひとりの排泄時間や午睡時間、個別のケースでの重要項目等の記録を残し、今後の支援に活かせるようにしている。	今後もこれらの記録を継続していくとともに、必要に応じてフォーマットを変更し、より分かりやすく記録に残せるようにしていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	6ヶ月に1回は必ず実施するとともに、状況に応じて適宜実施している。	
関係機関や保護	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	児童発達支援管理責任者が会議前に職員全員から情報収集し、代表して出席することが多い。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	保育所や幼稚園、他児童発達支援事業所、相談支援事業所等との連携を図っている。	必要に応じて、子育て支援課や保健所等との連携も強化していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	現在対象者はいない。	必要に応じて医療との連携も強化していきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	現在対象者はいない。	リハビリに通っている子どもが多いため、今後は医療面でのアドバイスをいただきながら支援を行っていきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	サービス担当者会議等を通して、情報共有する機会を多くいただいた。	保育所、幼稚園等との連携を大切にし、今後の支援に活かしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	文書を通じてではあるが、当事業所での子どもの様子を細かくお知らせし、移行につなげることができた。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	他事業所と併用利用している子どもが多いため、他事業所との連携を大切にし、支援方法の統一化に努めている。	必要に応じて他事業所と連絡を取り合ったり、会議を開くなどして連携強化していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	5	事業所として交流する機会は現在設けていないが、利用児のなかには保育所や幼稚園に通う子どもが非常に増え、日常的に多くの子どもと関わる環境にある。	以前、事業所として障害のない子どもとの交流を行ったことがある。コロナ禍ではあるが、今後同じように交流の機会を設けていくことについて慎重に検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	5	今年度もコロナ感染症の影響で会議等に出席する機会がほとんどなかった。	コロナ感染症の影響に左右されることが多いが、今後も外部での研修や会議に積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	送迎時等に子どもの様子について保護者とやりとりをするなかで、状況や課題について共有理解ができるよう努めている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	4	保護者に対して子どもとの関わり方などについて聞き取りや助言は行っているが、「ペアレント・トレーニング」という名目の支援は行っていない。	外部での「ペアレント・トレーニング」に関する研修への職員の受講について、今後検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	丁寧な説明を心がけている。	今後も丁寧な説明を心がけ、質問等があった際には随時お答えするなどの対応を行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	作成した児童発達支援計画の目標や支援内容等について、保護者に対する丁寧な説明を心がけ、同意を得るようにしている。	今後も丁寧な説明を行うよう努めていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	主に送迎時に保護者と顔を合わせる機会があるため、相談等ある際には送迎時にお話を伺うことが多い。相談を受けた際には助言を行うとともに、日々の支援に活かすことにもつなげている。	送迎時における相談対応、助言等に加え、必要に応じて個人面談等を行っていくことも検討していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	保護者会の結成等の支援は行っていない。コロナの影響もあり、保護者が集まる機会も少ない。	今後もコロナの影響に左右されるが、家族が参加できる行事を通して、家族同士での交流ができる機会を設けていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	相談や申し入れがあった際には迅速に対応できるように努めている。	相談受付体制等について重要事項説明書等で保護者にお知らせするとともに、相談や申し入れ等があった際には迅速かつ適切に対応できるように努めていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	事業所から月1回活動予定やお知らせ等を記載したおたよりを発信。また法人から年4回、活動の様子や情報等を記載した新聞を発信している。	今後もおたより等の発行を通して、必要な情報を発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	個人ファイル等を鍵付き書庫に保管。文書の廃棄にはシュレッダーを使用している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	日々の送迎時等を活用し、保護者と話をする機会を設けている。こちらから何かを伝える際にはわかりやすく丁寧に説明するよう心がけている。	今後も子ども、保護者とのコミュニケーションを大切にしていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	今年度はコロナの影響やその他諸事情により、地域住民の方々との交流の機会をもつことができなかった。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	月1回、様々な災害を想定した避難訓練を実施している。また感染症（特に新型コロナウイルス感染症）に関する対応マニュアルをもとに、業務を行っている。	防犯マニュアルに関しては作成に至っていないため、作成に向けた準備を行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	月1回、様々な災害を想定した避難訓練を実施している。	毎月の避難訓練を通して、救出方法や応援要請等について検証しながらマニュアル作成につなげていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	利用開始前に必ず確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	利用開始前に必ず確認を行い、食物アレルギーのある子どもについては対象となる食材を除去する等の対応を行っている。	必ず見落としや聞き逃し等がないように、契約時のアセスメントにて聞き取りを行い、記録を残すようにしていく。またそれ以外にも保護者からの情報提供があった際には早急に対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	事業所内及び法人内で共有している。	何かあればヒヤリハットとして記録を残し、再発防止に努めていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	毎年必ず法人内全職員を対象とした人権擁護・虐待防止研修を開催し、参加している。今年度は、令和4年1月に実施。	法人内での虐待防止委員会、虐待防止マニュアルの作成等の準備段階。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2	やむを得ず身体拘束を行う場合について、契約時に書面で説明を行っているが、現在対象者はいないため、児童発達支援計画への記載は行っていない。	今後対象者がいる場合には、児童発達支援計画に必要事項を記入し、保護者への説明も十分に行っていく。また、法人の身体拘束に関するマニュアルをもとに、慎重な対応を行っていく。

○この「児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。